

**観光案内サイン整備ガイドラインの
体系及び骨子について**

【観光案内サイン 整備ガイドラインの骨子】

目次

内容

現状と対応方針

(1)整備状況

○観光案内サインの整備進捗状況を整理。

(2)整備に関する問題点と対応方針

【問題点】設置スペースの問題等により整備進捗が遅れ、連続性が確保されていない。形状の工夫が必要。
→対応方針①:観光案内サインの形状の追加
【問題点】配置場所に関する設置方針がなく、設置者それぞれが設置しやすい箇所に整備を進めている。そのため、設置者間での統一性がなく、利用者にとって分かりにくい箇所に設置されている。
→対応方針②:観光案内サインの設置方針の明確化

位置付け

(1)位置付け

○観光案内サインの統一、迷うことない分かりやすい案内誘導、周遊観光の促進に向けてガイドラインを改定し、整備を促進する。

(2)対象範囲

○利用者が目的地まで移動する際に経路上で活用する観光案内サイン
①歩行者系の観光案内サイン:観光行動の起点(駅・駐車場等)から観光施設に至るまでの経路上で、道路管理者、自治体、公園管理者、公共交通事業者が、観光施設を案内する目的で設置・管理するもの。
②車両系の観光案内サイン:奈良県境及び各観光エリアへの主要な経路上で、道路管理者が設置するもの。

歩行者系の観光案内サイン

(1)サインの種類

○サインの種類は、図解標識、指示標識、周遊促進標識及び補足標識の4種(形状は8種類)

表1

(2)案内方針の検討手順

1)検討のフロー

○観光案内サインの内容、配置、デザインに関する検討手順を明確化

2)整備にあたっての視点

・視点1:初めて訪れる人にもわかる案内 → 土地勘のない人を前提とする
・視点2:観光客の情報ニーズに即した案内 → 観光情報の他、トイレ、休憩所等
・視点3:周遊性を高める案内

表2

3)対象範囲の設定

○観光客が徒歩で周遊できる主な観光施設及び主な交通拠点(駅、主要な観光駐車場等)が含まれる範囲

4)観光資源の整理

○著名な観光施設だけでなく、複数のメディアを使って対象範囲内の観光資源を抽出し、位置及び特徴等を整理。

5)観光行動実態の調査・把握

○交通拠点及び観光エリア内の主動線の現状、各観光施設の利用者数や満足度、迷いやすい箇所や区間等を把握

6)観光施設のランク付け

○歩行者系の観光案内サインで誘導すべき施設を選定。
○観光資源が多数ある場合は、積極的に周遊を促すにふさわしい施設をランク付けした上で選定。

7)案内経路・方針の設定

○観光資源の種類や分布状況、観光客の周遊特性、迷いやすい箇所等を踏まえて、効率的、効果的な案内経路・方針を設定。

(3)案内内容

1)提供すべき情報

○観光客が求める情報のうち、観光施設や休憩施設等の位置関係やそこまでの経路、ならびに利用に関する情報とする。

2)図解標識に表示する情報

○図解標識は、原則として「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」の基本仕様(案)に準拠。
○凡例部分には、基本的に外国語(英語、中国語(簡体字)および韓国語)を併記。

【支柱タイプ】
・縮尺・向き:主地図は1/1,500の縮尺で1m×1mサイズを基本とし、1.5km四方を表示。
・表示内容:施設重要度に応じてピクト等を目立たせる等、メリハリをつける。文字の大きさは和文9mm以上、英文7mm以上を基本とする。設置者(奈良県)、方位、場所、設置年月を記載する。地図に表示するのが望ましい施設は、トイレ、避難場所、病院、レストラン等。車道側に行き先や住所を記載。夜間の歩行者や観光客が多く訪れる場所には、照明の設置を検討する。
・色彩:図色と地色の明度差を大きく(5以上を目安)する。

【短冊(地図有り)】
・縮尺・向き:主地図は1/1,500の縮尺で、0.55m×0.55m~0.6mのサイズ、250m~1km四方が基本。
・表示内容:表示数は、表面・裏面ともに最大3施設。

【観光案内サイン 整備ガイドラインの骨子】

目次	内容
→ 3)指示標識に表示する情報	<ul style="list-style-type: none"> ○表示する施設の数、情報過多を避けるため、目安として矢羽根は5施設・短冊は3施設程度まで。多方向に指示する場合は、一方向につき3施設程度までを目安。 ○基本的に外国語(英語、中国語(簡体字)及び韓国語等)も併記。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【矢羽根】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図解標識「支柱」の規定内容に準じて作成。 ・ 表示数: 5施設程度までを原則 <p>【短冊(地図無)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「図解標識の短冊(地図有)」に準じて作成。 ・ 表示数: 3施設程度までを原則 <p>【フットサイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表示数: 目安として4施設程度まで。一方向につき2施設程度までを目安。 ・ 目的施設の名称、方向及び距離(m、またはkm)を表示。 <p>【古道等サイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表示数: 目安として2施設程度まで。一方向につき1施設程度までを目安。 ・ 目的施設の名称、方向及び距離を表示。 例) 終点まであと〇〇km、ポスト番号 6/11 等 </div>
→ 4)周遊促進標識に表示する情報	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の特徴や魅力、施設までの移動所要時間、休館日等を説明した簡潔な文章及び写真を表示。
(4)配置計画	<ul style="list-style-type: none"> ①主経路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光時の主経路となる起終点、分岐点、交差点等に観光案内サインを設置 ・ 観光施設が広範囲となる場合は、その周縁部や施設までの主経路上に観光案内サインを設置 ②周遊促進経路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主経路を補完して周遊観光を促進するため、経路の分岐点、交差点等に観光案内サインを設置 <ul style="list-style-type: none"> ○観光案内サインを組み合わせ、わかりやすい案内誘導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大拠点: 広域な地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 中拠点: 施設周辺の地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 小拠点: 目的の施設(ルートの起終点を含む)の方向、距離などの案内を行う箇所
1)配置に関する基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○観光案内サインを組み合わせ、わかりやすい案内誘導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大拠点: 広域な地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 中拠点: 施設周辺の地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 小拠点: 目的の施設(ルートの起終点を含む)の方向、距離などの案内を行う箇所 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【大拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道駅や主要な駐車場等、観光行動の起点に配置する。 ○ 周遊促進経路上では、歩行者の「たまり」空間、視認性の良い箇所等、歩行上の主要な地点に配置する。 <p>【中拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主経路上のまぎらわしい分岐点・交差点等に必要に応じて配置する。 ○ 周遊促進経路上では、基本的に分岐点・交差点に配置する。 ○ 迷いやすい区間では、経路に沿って指示標識をきめ細かく設置することで対応するが、必要に応じて経路地案内標示の追加による補足的な案内も検討する。 <p>【小拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主経路上のまぎらわしい分岐点・交差点等では、必要に応じて指示標識による案内を行う。 ○ 周遊促進経路上では、基本的に分岐点・交差点に配置する。 ○ 迷いやすい区間では、経路に沿って指示標識をきめ細かく設置することで対応するが、必要に応じて経路地案内標の追加による補足的な案内も検討する。 </div>
2)種類の組み合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ○観光案内サインを組み合わせ、わかりやすい案内誘導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大拠点: 広域な地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 中拠点: 施設周辺の地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 小拠点: 目的の施設(ルートの起終点を含む)の方向、距離などの案内を行う箇所
3)標識別配置方針	<ul style="list-style-type: none"> ○観光案内サインを組み合わせ、わかりやすい案内誘導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大拠点: 広域な地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 中拠点: 施設周辺の地図に基づく面的な案内を行う箇所 ・ 小拠点: 目的の施設(ルートの起終点を含む)の方向、距離などの案内を行う箇所
4)設置位置に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下のように、設置場所の統一を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 交差点(2車線以上): 各角(合計4箇所)に設置、通りに面し縦断方向に設置、歩道上の車道寄りに設置 ○ 交差点(1車線): 古道・散策道・公園等への案内誘導別に観光案内サインの配置方針を明確化
5)設置位置の考え方補足	<ul style="list-style-type: none"> ○ 標識の設置位置は、安全性、視認性、設置方向等に配慮して選定。 ○ 来訪者が夜間多く訪れる場所には必要に応じ照明の設置を検討する。
6)指示標識の連続性検証	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指示標識で案内する具体的内容について、確実に案内される計画になっているかどうか検証を行う。

表3

表4

【観光案内サイン 整備ガイドラインの骨子】

目次

内容

歩行者系の観光案内サイン

(5)デザイン

1)デザインコンセプト

- 奈良をイメージできるモチーフや形の取り込み
- 社寺、街並み、大和青垣など多彩な沿道景観との調和
- 初めて見る人に見やすく分かりやすい表示内容

2)基調色と基本形状

- 基調色：蘇芳色。
- 指示標識：矢羽根タイプ、図解標識は支柱タイプを基本。
- 図解標識：歩行者・車いす使用者が共通して見やすい高さとする。
- iマークは、図解(地図)標識を見つけやすい高さで設置する。

車両系の観光案内サイン

(1)サインの種類

- 対象とする観光案内サインの種類は、広域及び中域の2種類。
- 小域の案内は、標識令に基づく著名地点案内標識(114系)によるものとし、広域及び中域との連携を図りつつ実施する。

(2)表示内容

- 広域サインでは、歓迎の意をあらわすことに主眼を置き、設置箇所に応じたモチーフを表示。
- 中域サインでは、主要な観光エリアへの方向案内を行うこととし、各観光エリアに対応したピクトを表示。また、1箇所につき、最大3地名までの表示。

(3)デザイン

1)広域サイン

広域サインの色や文字フォントを規定。

2)中域サイン

中域サインの色や文字フォントを規定。

(4)配置計画

- 広域サイン及び中域サインの配置は、奈良県内の観光利用交通量の多い幹線道路を中心に、各観光地エリアへのアクセス性を考慮して計画する。
- 今後、新たな道路ネットワークが整備された時点で、主要な交差点等において配置の見直しを行うこととする。

マネジメント

(1)維持管理とマネジメントの仕組みづくり

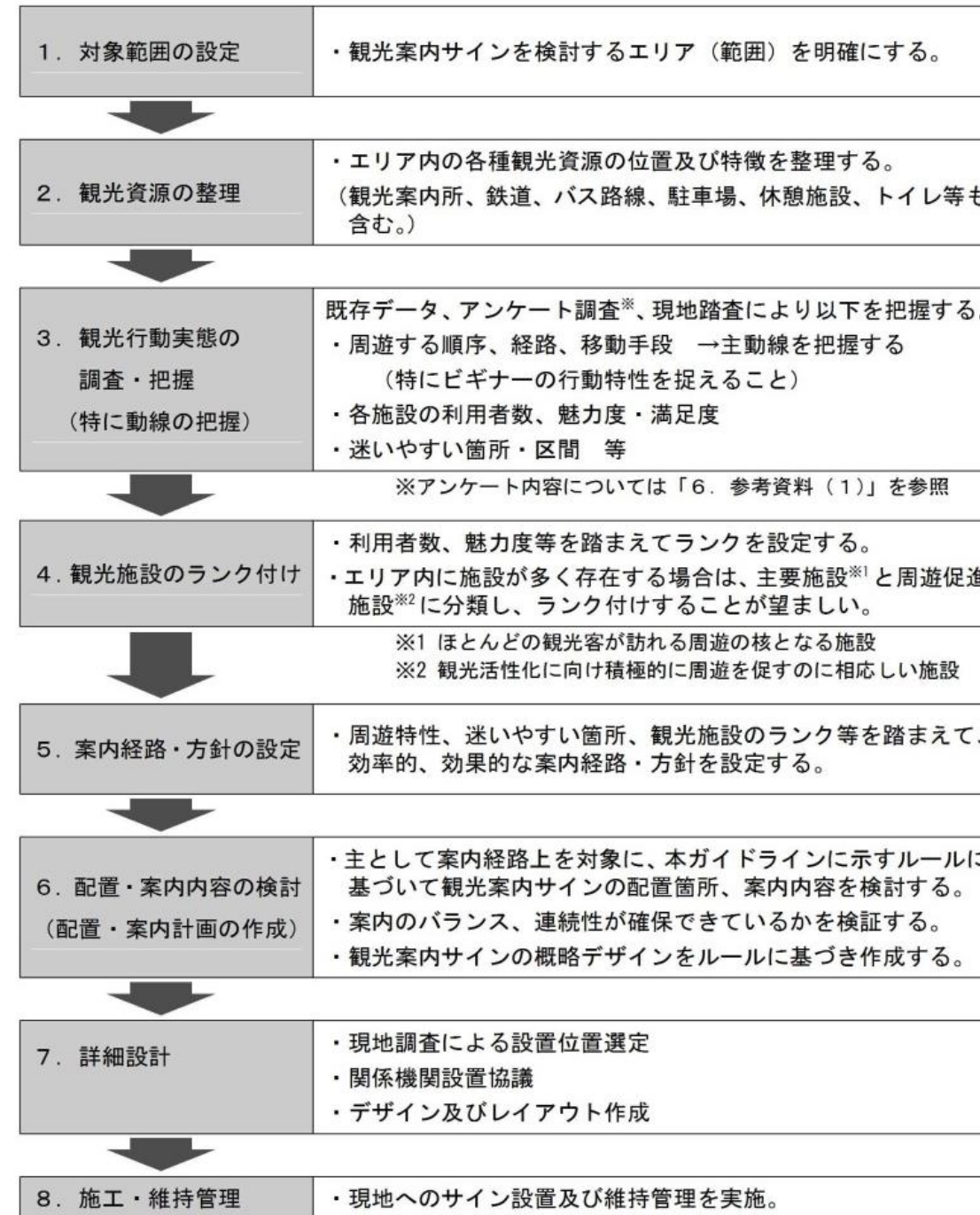
- 設置した観光案内サインは、維持管理者を明確にし、常に適切に情報提供できるよう、表示面の清掃や本体の点検・補修等を行うとともに、観光施設や道路等に変更があった場合には適宜情報の修正、更新を行う。

【観光案内サイン 整備ガイドラインの骨子】

表1 【観光案内サインの種類】

種類	機能概要	形状	姿イメージ (例)	適用
図解標識	地図をメインに表示し、現在地、周辺観光施設等の位置関係を面的に把握させる。	支柱		地図はデフォルメされたものではなく、距離や歩道が正確に表示されたものとする。 ※原則は「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」(2003年11月、国土省道路局監修)の附録1の基本仕様(案)に準拠
		短冊 (地図有)		
指示標識	目的とする観光施設等への方向および距離等を表示し誘導させる。	矢羽根		見通しが悪く、先へ進むことをためらうような区間で、図解標識が設置困難な場合等は経路の先に何があるかを表示した「經由地案内標」の設置も可能とする。
		短冊 (地図無)		手持ち地図やガイドブック等との連携が可能な場合は、各地点固有の記号・番号を表示し、現在位置を識別させる「固有番号標」を併設することも可能とする。
		フットサイン		
		古道等サイン		起終点を結ぶ単ルートで構成される古道等(山の辺の道、近畿自然歩道、東海自然歩道等)に設置される観光案内サイン。
周遊促進標識	主要観光施設周辺において、次への周遊を促進するために、特徴・魅力等を写真等とともに提供する。	支柱		指示標識と併設し、案内施設を整合させる。
補足標識	起終点までの距離等を表示し、誘導させる。	古道等サイン		古道等において、指示標識の補足として設置する。


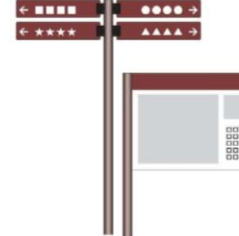
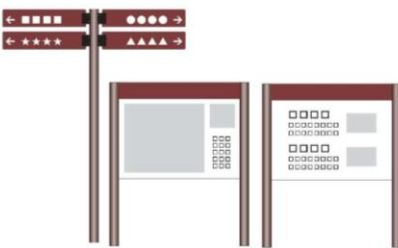
表2 【観光案内サインによる案内方針の検討フロー】



【観光案内サイン 整備ガイドラインの骨子】

表3 【観光案内サインの種類組み合わせ】

【既存】

分類	種類	機能概要	姿イメージ (例)
大拠点	図解標識 (支柱)	地図をメインに表示し、現在地・周辺の目的の観光施設等の位置関係を面的に表示。	
	図解標識 (支柱) + 指示標識 (矢羽根)	地図をメインに表示し、現在地・周辺の目的の観光施設等の位置関係、目的とする観光施設等への方向および距離等を表示。	
	図解標識 (支柱) + 指示標識 (矢羽根) + 周遊促進標識 (支柱)	地図をメインに表示し、現在地・周辺の目的の観光施設等の位置関係、目的とする観光施設等への方向および距離等、主要観光施設周辺において、次の周遊を促進するために、特徴・魅力を伝える写真等を用いて表示。	



【追加】

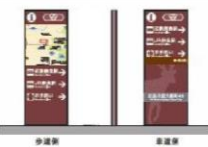

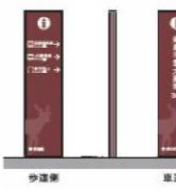
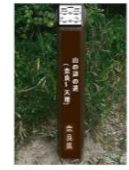
分類	種類	機能概要	姿イメージ (例)
中拠点	図解標識 短冊 (地図有)	地図をメインに表示し、現在地・周辺観光施設等の位置関係を面的に表示。	
	指示標識 (矢羽根) + 地図	目的の観光施設等への方向及び距離等を表示。観光施設の位置関係を表示。	
小拠点 (分岐点含む)	指示標識短冊 (地図無)	標識により、目的の観光施設等への方向及び距離等を表示。	
経路標識	補足標識 (古道等サイン)	古道等において指示標識の補足として設置。起終点までの距離ポスト番号等を表示。	

表4 【観光案内サインの配置方針】

